新時代の大型映像ビジネス 88

札幌の歓楽街に大型ビジョン

ホワイトカンパニーが運営

北都・札幌を代表する歓楽街すすきのに8月6日、北日本最大サイズを誇る街頭大型ビジョン「サブロー．TV」が誕生した。フルカラーLED大型映像で画面サイズは359型（縦4・48㍍×横7・93㍍／セキシン電機製）で、すすきの交差点の恵愛ビル壁面に設置されている。「サブロー．TV」を運営するのは、すすきの地区のフリーペーパー「すすきのFreec」を発行するホワイトカンパニー（札幌市中央区、小玉享幸社長）である。（文・取材／川田宏之、取材協力／中原さくら）

北日本最大サイズの359型 フリーペーパーとの連携も

すすきの交差点では、ニッカウヰスキーの大型看板で知られるすすきのビルにおいて、2014年2月まで北海道新聞社が運営する街頭大型ビジョン「道新ビジョン」が設置されていた。

小玉社長は「当社としては、フリーペーパーに次ぐ新たな媒体として大型ビジョンに注目していた。そこで、放映が終了した道新ビジョンの権利を引き継ぐことで、ビルのオーナーらと交渉を重ねたが不調に終わった。その代わり、すすきのビルの交差点を挟んだ、は す向かいにある恵愛ビルのオーナーと契約が成立。大型ビジョンを設置することになった」と話す。

ホワイトカンパニー常務取締役の佐藤晋也氏は「すすきのを盛り上げたい、札幌に貢献したいという気持ちから、大型ビジョン事業を立ち上げることになった。すすきの交差点は日本でも有数の人の多い場所で、年間延べ約5000万人が通るというデータがある。この数値は午前9時―午後7時の統計。深夜までにぎやかなすすきの交差点は、実際にはそれをはるかに超えていると推定される。札幌は厳寒の土地であり、冬場を中心に地下歩行空間などは人通りが多いが、大型ビジョンは、地下鉄すすきの駅の出口で地下街の南側出口に位置しているという利点もあり、地下通行で目にしないということもない」と語る。

この地域には、すすきの交差点から1つ先の交差点にも「すすきのビジョン」（ビッピ製、メガ・コーポレーション運営）が設置されている。風俗関連のテナントが多く入居する日劇ビル壁面に設置されているというが、それらも含めてすすきのである。この地域に長年かかわってきたこともあり、情報をもっと広めていきたいと思っている」と話す。

小玉社長

佐藤常務

●最大限の大きさ

「サブロー．TV」は、北日本最大の大きさを誇る。小玉社長は「壁面に設置できる最大限にしたいと思った。その結果として北日本で一番大きなサイズとなった。初めから一番大きいのを狙ったわけではない」と自重気味に語る。

ホワイトカンパニーに大型ビジョンを販売したのは、さいたま市大宮駅前や大阪市難波道頓堀、福岡市博多駅前などで、幅広く街頭大型ビジョン事業を展開しているインターコネクト（東京都中央区、佐藤嘉生社長）である。

北日本最大の大型ビジョン「サブロー．TV」

小玉社長は「計画から設置までの日数は約1年。LEDディスプレーに関しては、さまざまな製品を比較検討したが、既設ビルに後付けということもあり、重量面が重要ポイントだった。それに価格面も重視してインターコネクトに発注を決めた。LEDディスプレーは、セキシン電機の製品とのことであるが非常に満足している。アドバイスも的確で、新規にこの事業を始めた当社にとっては、何かと相談相手にもなってもらった。単なるハードを売りだけではなく、実践的で親身になった対応に感謝している」と評価する。

この大型ビジョンの責任担当者であるインターコネクトの上田彰取締役は「ハードウエアは当社が多く利用している赤見電機製品も検討したが、重量面や価格面で採用することができなかった。そこで当社も福岡のビジョンなどで利用中のセキシン電機製品を推奨した。今後も当社としては可能な限りバックアップしていきたい。日本全国のネットワーク展開も視野に入れている」と述べている。

●アプリとの連動検討

ホワイトカンパニーの佐藤氏は「当社は携帯アプリ開発（すすきのマップ・動画）の事業も手掛ける。フリーペーパー用のアプリは開発済みで、多くのユーザーがいる。大型ビジョンと連動したインタラクティブな展開も図る。東京・新宿のユニカビジョンは、大型ビジョン専用アプリ持っているが、将来的にはそのような方向を検討していく」と話す。

同社が展開中のアプリは、観光客用などにお勧めの店などのデータが入っている。またフリーペーパーの「すすきのFreec」や「すすきのOUTHERNMAP」というマップも、すすきの地区のホテルを中心に約90カ所配布している。

小玉社長は「全国展開している店舗の情報サイトもあるが、当社の媒体は地元の人たちの意見を集めて、お勧めできるものを載せているのが特徴。地元密着の情報発信を今後も手掛けていく」と強調する。

「サブロー．TV」に関しては「まだ本格稼働して1カ月余りだが、これから多様なコンテンツの上映を含め営業していこうと考えている。現在の放映内容としては、飲食店をはじめ、コンビニや銀行、消防局、自衛隊、そのほかイベント関係などの情報が主体である」と説明する。

「サブロー．TV」の放映時間は、午前8時から翌午前4時（午後10時―午前4時は無音）までの20時間連続で、全国の街頭大型ビジョンの中でも屈指の長時間運営だ。夜中でもにぎやかな、すすきのならではである。

「サブロー．TV」という名称にもこだわりがあるという。

佐藤氏は「目前の国道36号線（地元は「さぶろく」と呼ぶ）と札幌を兼ねたネーミングで、社内で検討してこの名前に決めた。『サブロー』なら北島三郎を連想できるなどの点も含め、覚えやすくて良い。また、テレビに近い存在でありたいとの思いもあり、『TV』と付けた。地域に愛されるネーミングでこれからより多くの人に認知してもらいたい」と語った。

今後の展開として、小玉社長は「地元の新聞との提携も模索している。野球やサッカーなど、スポーツに特化したものも流してみたい。まずは地域に貢献していくということが大きな目標としてある。どれだけ札幌、あるいは北海道のものを流していけるかが課題。この大型ビジョンを見て、札幌に来た人が、次は富良野へ、旭川へ行こうなどと思ってもらえたらうれしい。大型ビジョンと言えば『サブロー』と言ってもらえるようにしたい」と事業拡大に意欲を示している。

札幌の大通駅構内にデジタルサイネージ

道内最大級　10月1日稼働

札幌市中央区の市営地下鉄・大通駅構内に、道内最大級のデジタルサイネージが登場する。同構内東側に設置した「さっぽろスノービジョン」（運営＝札幌市交通局）は、60型マルチ液晶ディスプレー2面×12台の合計24面のシステムだ＝写真。10月1日から正式稼働予定で、9月上旬から試験放映を開始している。

2016年1月には、西側に同規模のデジタルサイネージが設置される予定。これが完成すれば、北海道JRエージェンシーが展開する札幌駅JRタワー地下の「札幌ビラービジョン」の64面に次ぐ規模の道内最大級のデジタルサイネージとなる。

ギャラクシー賞CM部門作品募集

GALAXY AWARD FOR ADVERTISING

CMは民間放送の経営基盤を支える重要な役割を持つと同時に
マーケティングのツールとして
欠くことのできない大きな存在です
ギャラクシー賞CM部門は新しい可能性を求めてチャレンジする
多くの広告人に敬意を払う広告賞です
作品個々のクリエーティブ面の評価に加えCMの持つ社会性、文化性を重要視し
放送批評の視点でCMのあり方を究明・評価して
「未来を示唆するテレビCM」の発見、選奨に努めてまいります
応募には何の資格も制限もありません
広告主、広告会社、制作会社をはじめCM制作に関わられた個人の方々からのエントリーも歓迎いたします
私たちは本賞を「志高く！」をモットーに育てていきたいと考えています
今年もまた皆様からの意欲作をお待ちしています

ギャラクシー賞CM部門2015年度上期審査
主　　催　NPO法人 放送批評懇談会
応募対象　2015年4月から9月の間に放送されたテレビCMのすべて。地上波、BS、CS、CATVのいずれかのメディアで放送されたもの。
応募資格　広告主、制作会社、広告会社、テレビ局などの企業・団体もしくは個人。CMの制作に関与したすべての人が応募可能。
応募方法　所定の参加申込用紙に必要事項を記入し、応募作品を収録したブルーレイディスク。〈※データ形式はHD（1280×720以上）のMPEG2。MPEGが不便な方はBDAVV形式も可。レターボックスは不可〉と一緒に、放送批評懇談会「ギャラクシー賞CM部門係」あてに送付または持参。
受付期間　2015年9月1日～10月2日
審査料　一般　1作品につき12,000円　シリーズ作品として応募する場合 2作品=21,600円、3作品=32,400円
維持会員　1作品につき10,000円　シリーズ作品として応募する場合 2作品=18,000円、3作品=27,000円
＊維持会員一覧は放送批評懇談会ホームページhttp://www.houkon.jp/をご参照ください。
＊参加申込用紙の請求および詳しいお問い合わせは、放送批評懇談会「ギャラクシー賞CM部門係」までご連絡ください。

NPO法人 放送批評懇談会　〒160-0022 東京都新宿区新宿5-10-14中村ビル2F　Tel.03(5379)5521　Fax.03(5379)5510
URL http://www.houkon.jp/　E-Mail galaxy-c@houkon.jp